

探訪

北の風景 117

反戦名画や貴重な彫刻 がずらり 平和祈念館

渡島管内長万部町

萩 本 和 之



「反戦名画や彫刻など『至宝の山』にびつくりした、と見学した方には言われます。隠れた観光名所ですが、新幹線駅が開業すれば、きつともつと、もつと注目されます」こう話すのは渡島管内長万部町教委の元文化財係長で、平和祈念館のガイド役を何度も経験がある滑川剛さん。

同館は1983（昭和58）年の終戦記念日（8月15日）に開設。同町で43年間開業医をしていた工藤豊吉氏（99年逝去）が、高床校倉風の鉄骨造り平屋約200平方メートルの建築物と、平和や反戦の思いがこもった美術品や仏像、彫刻など約300点全てを同町に寄贈したもの。オープン当時でも

2億数千万円の価値があったといわれている。前庭は彫刻の庭で、札幌出身の世界的彫刻家・本郷新氏の作品「嵐の中の母子像」「わだつみのこえ」ほかブロンズ像計5基が飾られているほか、「いまからでもおそくない」と反戦・反核を熱く訴える工藤医師が揮毫した石碑もある。館内には円空作の一本造「観音菩薩坐像」（同町指定文化財）をはじめ、丸木位里さん・俊さん夫婦が同館の趣旨に賛同して特別に描いた「原爆の図・母子像」や、隠れキリシタン関連の「踏み絵」や「マリア母子像」「禁止の高札」、ジョルジュ・ルオーの版画「ペロニカ」、東本願寺の北海道巡教錦絵版画（松浦武四郎発案）、さらに平和への祈りを基調とした石像、仏像、古美術など工藤氏のコレクションがずらりと並んでいる。

工藤医師は生前一人で3000筆以上の反核署名を集めた実績があるが、こうした工藤医師の熱い想いを受けて2005年から毎年終戦記念日に同館前で「平和の集い」が開かれている。民宿経営で、「おしやまんべ九条の会」の共同代表でもある山内恵二さんらの呼び掛けで、「原水爆禁止長万部協議会」（理事長・三浦祐真）との共催。今年も木幡正志町長や佐藤英代副町長ら20人以上が参列。中にはわざわざ台湾や京都からの家族連れも。参列者は一人ひとり平和への想いを発言するとともに、工藤医師の遺産・遺志の意義をかみしめていた。

平和祈念館内には世界的に名高い丸木位里さん・俊さん夫妻が、建設趣旨に賛同して原爆の図の続編として特別に描いた作品「原爆の図・母子像」などが展示されている。静寂な空間の中、どの作品からも人類の恒久平和を希求、祈念する想いが伝わってくる



軍国化、戦争を押し進める国家へ抗いながらも、弱い立場の自分をシンボライズした「カツパ」を数多く描いた植木蒼悦氏。その水墨画をはじめ、油彩画、俳句書などの作品が展示されている記念館



同館の近くにはやはり工藤医師が寄贈して1982年にオープンした植木蒼悦（82年逝去）の記念館が建つ。函館出身の植木氏は水墨画家であるとともに俳人。「孤高貧窮の仙人」とも呼ばれた。反戦主義者だった植木氏は、軍国化を進める国家への抵抗のシンボルとして河童を見立てて、自らの生き方にも投影した、といわれ、「カツパ」画を数多く描いた。館内には、それらの絵のほか油彩画や書、俳句合わせて約100点が掲げられている。どちらも入館観覧は無料で月曜日は休館。無人施設のため、同町教育委員会 電話01377・2・2748）に事前連絡が必要。

長万部には東京理科大学大キャンパスがある。同町とは「地方創生の包括的連携協定」を結び、再生



平和祈念館の前庭に世界的な彫刻家・本郷新氏のブロンズ像「嵐の中の母子像」「わだつみのこえ」などが飾られているほか、石仏のコレクションルームや峠三吉氏の「八月六日」と言う詩が刻まれた石碑なども。高床校倉風の同館内には、平和への祈りを基調とした古今東西の仏神像や絵画、水墨画など工藤豊吉医師のコレクションが所狭しと並べられている“宝物館”



町おこしグループ「おしゃおこ」の恒例の仮想ゴミ拾いに東京理科大生も参加。地域の子供らと一緒に心地よい汗を流した＝「おしゃおこ」提供

エネルギーを利用したミニトマト栽培に取り組んでいる。全国からの学生は全員同校の寮で1年間過ごしており、本年度からは経営学部国際デザイン経営学科の1年生約130人が通い始め、学生たちはこれまでよりも積極的に地域に飛び出し、町民との交流を深めている。7月の「おしゃまんべ毛がにまつり」では、40人以上がイベントの運営に参加した。

10月31日のハロウィンには町おこしグループ「おしゃまんべまちおこしプロジェクト（略称：おしゃおこ）」（代表・高野暢子）主催の「ハロウィンゴミ拾い」に仮装した大学生4人が参加。約30人の町民と一緒にJR長万部駅から商店街を約2[＊]区間を1時間かけてワイワイいながら、こみ拾いをして快い汗を流していた。

へはぎもと かずゆき・元札幌国際大学教授▽